

令和3年度事業計画書

公益目的事業

1. 講演会等の普及啓発

(1) 五井平和財団フォーラム 2021 開催

開催日 令和3年11月13日(土) 予定

場 所 東京都千代田区 日経ホール

参加予定者 約600名

(2) 講演会の開催

「講演会シリーズ：21世紀の価値観」

オンラインで年4回開催 対象は賛助会員および一般

視聴者見込み 各回約1000名

(3) Living New ワークショップ

対象は賛助会員および一般

・オンライン・ワークショップ年2回開催

・コース型ワークショップ年1回開催(全4回)

(4) 賛助会員との交流及び活性化事業

①五井平和財団会員総会開催

オンラインで年1回開催 対象は賛助会員および一般

参加予定者 約1000名

②地方懇談会の開催

年1回開催 対象は賛助会員および一般

開催地未定

参加予定者 約100名

③ボランティア活動

コミュニケーターの活性化 財団活動の広報・普及

コミュニケーター研修会(オンライン)

ピースフル・プロジェクト

(5) オンライン・サロン

オンラインを活用し、ユースと有識者層との対話によって平和意識啓発・リーダー層の育成を図る

1コース5回程度のワークショップを開催予定

(6) 7 Million Actions and Prayers ワークショップ

目的：世界平和を推進する個人・団体をつなぎ 700 万人のネットワーク構築を目指す

内容：対象となる国の長所や課題、支援活動等を当事者から語ってもらい理解を深める「まなび」、その国を含めた世界 191 カ国に平和のメッセージを贈る「ギフト」、対話を通じて参加者同士の共感、プロジェクトの協働等を促す「つなぐ」の 3 部構成のプログラム

(7) 国際交流事業

①国連、ユネスコ、各種国際機関および駐日大使館との交流事業

②海外民間団体等との交流事業

- ・ブダペストクラブ
- ・カザフスタン初代大統領財団
- ・モハメッド六世環境保護財団（モロッコ）
持続可能な開発のための教育（ESD）における平和教育ならびに環境教育促進のための共同プロジェクト
 - ノウハウの相互提供
 - 教育教材の共同開発
 - 両国の学校間交流など

③ヨーロッパ拠点活動

ヨーロッパ事務所（ミュンヘン）における財団事業の展開

- ・社会起業家育成プログラム運営
- ・国際ユース作文コンテスト広報ならびに選考
- ・北欧理事会（Nordic Council）、黒海経済協力機構（Black Sea Economic Cooperation）にピースポール贈呈 ほか

④姉妹団体活動協力

May Peace Prevail On Earth International（米国の非営利法人）の日本窓口
（*ワールド・ピース・プレイヤー・ソサエティから改称）

日本語ウェブサイトおよびメールマガジン等による情報発信
<http://www.worldpeace-jp.org>

⑤東京オリンピック・パラリンピック関連平和活動（2020 年から延期）

- ・東京 2020 参画プログラム「ピースパル国際アートコンテスト」
成田国際空港 NAA アートギャラリーにおける展示
8 月 5 日（木）～8 月 24 日（火）／第 1 ターミナル中央ビル 5 階
オリンピック選手村での展示を企画
作品展示キャンペーン（賛助会員による自主活動）
- ・ピースメッセージ・ピースドール配布

(8) 「富士宣言」推進 (パートナー組織および事務局として)

① 「富士宣言」パートナー団体との共催事業

■ コンシャス・ビジネス・アライアンス

共催：ブダペスト・クラブ、ヒューマニティズ・チーム、ケース・ウェスタン・リザーブ大学

目的：新しいビジネス・パラダイムを模索するビジネス・リーダーたちと連携し、自然環境の保全と人類の幸福の拡大を図りつつ、経済的繁栄を達成する新しいビジネス・モデルの創造

内容：コンシャス・ビジネス・デklarレーションの推進、コンシャス・ビジネス・デーの制定・促進、コンシャス・ビジネス認証

■ ソウル・オブ・ウィメン

・女性の会（国内） 定期開催

■ ソース・オブ・ワンダー

・日本語による動画配信

② ウェブによる推進

・ウェブ上で賛同者ネットワークの拡大、イニシアティブの推進を継続的に展開

・富士宣言賛同者による寄稿

<http://fujideclaration.org/>

(9) 各種情報媒体の活用

①機関誌「平和の創造」および「MPPOE ニュース」発行

季刊 各約 5,000 部作成と発送

活動報告、新しい方向性、発信すべき情報等を掲載

②インターネット

ウェブサイト <http://www.goipeace.or.jp>

メールマガジン「平和の創造」（日本語）、「Goi Peace News」（英語）発刊

ソーシャルメディア（Facebook、Twitter、Instagram 等）活用

YouTube 公式チャンネル（日英）

③各種行事のDVD制作

DVDおよびホームページ動画

④パンフレット等

財団紹介パンフレット（日英）

既存パンフレット等の有効活用

2. 五井平和賞顕彰事業

(1) 2021年度五井平和賞

■趣旨

教育、科学（人文・自然）、文化および芸術の分野で世界平和に資する活動・研究を行い、その方向性において全てとの調和を中心に据えた人類社会の招来という五井平和財団の理想と一致した個人または団体に授賞

■授賞式 令和3年11月開催予定の2021年度五井平和財団フォーラムで実施

■選考委員

(委員長) 佐藤 禎一	東京国立博物館名誉館長 元国際連合教育科学文化機関日本政府代表部特命全権大使 (当財団顧問)
明石 康	公益財団法人国立京都国際会館理事長、元国連事務次長 (当財団理事)
黒川 清	東京大学・政策研究大学院大学名誉教授、日本学術会議元会長
近衛 忠輝	日本赤十字社名誉社長
西園寺昌美	公益財団法人五井平和財団会長
田坂 広志	多摩大学大学院教授、シンクタンク・ソフィアバンク代表
村上 和雄	公益財団法人国際科学振興財団・バイオ研究所長 筑波大学名誉教授 (当財団理事)

3. 研究会等の調査研究

■平和科学調査研究会

年1回開催

幸せの価値観、新しい社会モデル、科学的事例調査各分科会による活動
自由研究、平和へのシナリオ、数学、生命憲章と科学思想についての調査研究
新しい文明に向けた価値観の共有
「つながり」を共通テーマとした「富士宣言」に関するリサーチ

■社会変革に関する調査・研究

個人や社会が平和意識へと変容した要因・契機の事例収集ならびに調査・研究・
体系化と優良事例の普及

■ユース層に対する平和意識のアンケート調査

25歳を上限とする国際ユース作文コンテスト参加者を対象に、任意で平和意識に関するアンケートを毎年行い、データの推移を分析。また、青少年が求める平和教育の考察にも活用。

4. 国際交流プロジェクト

(1) 群馬県立女子大学連携講座「国際理解と平和」

平和について考える大使リレー講座については、新型コロナウイルス感染防止の観点から駐日大使・外交官らを招いての講座は当面中止。

令和3年度に実施する「持続可能な社会に向けて：SDGs リレー講座」(全12回)の後期10月以降に、SDGs達成に向けて先進的な国の大使の紹介で協力予定。

(2) 駐日外交官による交流プロジェクト

各国駐日大使館と日本の学校・教育機関との交流支援

5. 2021年度 国際ユース作文コンテスト

ユネスコ・持続可能な開発のための教育(ESD)を推進する事業として実施

■ テーマ 『いのちって何?』

あなたにとって、いのちとは何でしょう。いのちについて考えるきっかけとなった体験はありますか。自分やあらゆる生命を大切に、いきいきと生かすために、あなたはどんなことができますか。

■ 応募資格 子どもの部(小学生・中学生)、若者の部(高校1年生から25歳まで)

■ 応募締切 令和3年6月15日(火)必着

■ 各賞 文部科学大臣賞/各部門1点

その他優秀賞、入選、佳作、学校特別賞(該当校がある場合)

■ 作品発表 令和3年11月開催予定の2021年度五井平和財団フォーラムで実施

■ 選考委員

(委員長) 千 玄室 茶道裏千家前家元 (当財団理事)

西園寺昌美 公益財団法人五井平和財団会長

都倉 俊一 作曲家、文化庁長官

成田 純治 株式会社博報堂取締役相談役(当財団理事)

服部 真二 セイコーホールディングス株式会社代表取締役会長兼
グループCEO兼グループCCO

松浦晃一郎 一般社団法人アフリカ協会会長、前ユネスコ事務局長

(当財団評議員)

美内すずえ 漫画家

矢崎 和彦 株式会社フェリシモ代表取締役社長

葉 祥明 絵本作家

■ 主催 公益財団法人五井平和財団

■ 後援 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、日本私立中学高等学校連合会、東京都教育委員会、NHK、日本経済新聞社

■ 協賛 セイコーホールディングス株式会社、プラス株式会社

国際ユース作文コンテスト受賞者間のウェビナーによる交流プログラム

Winners Forum によるオンライン交流

6. 地球っ子広場

- 活動趣旨 子どもたちが放課後や休日に、広く社会と触れ合える居場所を創設し、保護者、地域の人々が集う、良き地域コミュニティを目指し、生命・平和・環境等を大人と子どもが共に学ぶ広場を運営する。
- 後援予定 ユネスコ国内委員会
- 活動内容

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインで開催

12ヶ所で実施予定

<国内>

地球っ子広場・仙台（宮城県）	地球っ子広場・五井（千葉県）
地球っ子広場・いすみ（千葉県）	地球っ子広場・船橋（千葉県）
地球っ子広場・自由が丘（東京都）	地球っ子広場・茅ヶ崎（神奈川県）
地球っ子広場・新潟（新潟県）	地球っ子広場・富士SUN山（山梨県）
地球っ子広場・きょう（京都府）	

<海外>

ラボラトリオ デイ ハーチェ
Laboratorio di Pace（イタリア）

エスパス
ESPACE KIDS（フランス）

Earth Kids Space（ケニア）

文部科学省「学校と地域でつくる学びの未来」ウェブサイト*内の「土曜学習応援団」に教育プログラムとして登録申請

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/program/index.html>

*同ウェブサイトでは、民間企業・団体・大学等が学校に対して提供できる出前授業や施設見学等の「教育プログラム」をデータベース化して公開

コーディネーター研修会 2022年3月開催（場所未定）

- 地球っ子キャラバン
地球っ子広場の発展的な形で、被災地の子どもたちをサポートする教室開催
- 地球っ子e広場（オンライン）
 - ・プログラミング教室
 - ・外部団体との連携イベント開催
- マニュアル・教材の有効活用
これまでの実践を体系化して作成したマニュアル、モデル教材（日英）を活用して、国内外での更なる展開を図る。

7. 社会起業家育成プログラム

国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の推進ならびにユネスコ・持続可能な開発のための教育（ESD）の推進事業として実施。

- 内 容：持続可能な開発目標（SDGs）の達成に資するアイデアやプロジェクトを募り、若者の社会起業を奨励・育成するオンライン・キャンパスおよびオンライン・コンペティション
- 主 催：五井平和財団、スティッフタンク・アントレプレナーシップ財団、デジタル・エキスパート・ユナイテッド
- 後援（予定）：World Peace Youth、International Campaign for the Youth Employment Decade、World Assembly of Youth、YES Initiative (Youth Europe Self-Improvement)ほか
- 応募資格：ユース部門 15～30歳 アダルト部門 31歳～
- 応募部門：ベスト・アイデア部門、ベスト・プロジェクト部門
- 応募締切：6月30日
- 各 賞：最優秀賞、2位、3位、ピープルズ・チョイス賞／各部門1点
- 授賞者発表：オンライン授賞式で発表
- 選考方法：ウェブサイト上で最多得票を集めたエントリーにピープルズ・チョイス賞を授与
得票数により、各部門上位10位までのファイナリストの中から選考委員が最優秀賞、2位、3位を選考
- 選考委員：ギュンター・ファルティン（ベルリン自由大学教授）
（予 定）西園寺裕夫（五井平和財団理事長）
ベルナード・コム（UNESCO 持続可能な開発のための教育プログラム・スペシャリスト）
パメラ・ピーターズ（Institute for a Sustainable Planet／ Executive Director）
セスト・ジョバンニ・カスタグノリ（Future Cooperative 共同創設者）
ラヴィ・チョードリー（シーネクスト・コンサルティング&インベストメント会長）他

8. ユネスコ活動・ESD（持続可能な開発のための教育）

- ①環境省請負事業『ローカル SDGs ユース・ダイアログ』（環境省助成金申請予定）
SDGsの担い手となるユースの育成および、地域におけるコミュニティの形成
 - ・全国3カ所程度
 - ・対面開催（オンライン併用）
 - ・10月頃～2月に掛けて、全3回のシリーズで実施
- ②ESD ユース・マルシェ
ESDに関わるユース世代を主な対象とし、ユースが講演を行う勉強会
 - ・全12回程度（月1回程度）
 - ・オンライン
- ③ESD 日本ユース・コミュニティミーティング
約300名からなるESD日本ユース・コミュニティへの学びと交流の場を提供し、ユース・コミュニティの更なる活性化を図る。
 - ・年2回程度（6月、12月）
 - ・オンライン

④ ESD 岡山アワード

ESD 岡山アワードを運営委員会のメンバーとしてアワード選考委員を担当

⑤ ユネスコスクール支援

千葉県立市川昂高等学校「開かれた学校づくり委員会」に委員として参加等

国際ユース作文コンテスト受賞者との国際交流支援

9. 青少年育成に係る若手指導者養成奨学金事業

本奨学金制度は、青少年が心身ともに健全で、持てる能力や創造性を発揮し、いきいきと尊厳をもって活躍できる豊かな社会づくりを目的に、スポーツ・芸術の分野において青少年育成に係る指導者を目指す将来有望な若者に対して、必要な知識や能力を身につける研さん活動への経済的援助を行うことを目的とする。

- 応募資格：①日本国籍（永住権可）を有する者で2021年7月31日現在40歳以下の者
②大学の教員職（非常勤講師を除く）に就いていない者
③スポーツ・芸術等の分野で活動実績を有するもので青少年育成に意欲旺盛である者
- 採用予定数：①特別奨学生（主に海外において指導者としての研さん活動を行う者） 1名
②一般奨学生（主に国内において指導者としての研さん活動を行う者） 5名以内
- 応募期限：2021年7月31日まで
- 選考方法：当財団の選考委員会が行い、選考委員が選考を決定する。
①1次選考（書類）：2021年8月予定
②2次選考（面接）：2021年9月予定
- 選考委員：（委員長）成田 純治 博報堂取締役相談役（当財団理事）
魚谷 雅彦 資生堂代表取締役社長兼 CEO
大塚 久利 大塚刷毛製造前代表取締役会長
西園寺裕夫 五井平和財団理事長
竹田 恆和 日本オリンピック委員会前会長
都倉 俊一 作曲家、文化庁長官
服部 真二 セイコーホールディングス代表取締役会長兼グループ CEO

以上